

平成 23 年度 府立泉北高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

<p>① 文武両道をめざす高校 高い志をもち、幅広い教養を身に付けると共に他人を思う心を育む。また、特別活動や部活動をとおして逞しい実行力、実践力を養う。</p> <p>② キャリアガイダンスの充実した進学校 多様な進路に関する情報を提供することによって明確な進路目標をもたせ、その目標へ向けての学習活動によって進路希望の実現へと導く。</p> <p>③ 国際文化科と総合科学科という特色ある学科を基本とし進化を続ける高校 専門学科の利点を生かし、時代の要請に応じた新しい取組みを進めていく。</p>
--

2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 23 年 12 月 実施分]	学校協議会における提言内容
<p>*教員・生徒・保護者対象に自己診断アンケートを実施。生徒による授業アンケートについては、今年度は、全科目について実施した。</p> <p>①教員用アンケートを先に実施し、その分析から、設問を通して、本校において「重要度が高くかつ実現度が低い」項目は、「生徒の自宅学習（重要度 93.8% ⇒実現度肯定 8.1%）」であることが鮮明になった。その問題をより深く分析すること、教員と生徒・保護者の意識のズレを探るために、同じ観点による設問を多く設けた。</p> <p>②「他の学校にない特色がある」との設問への肯定回答、教員 93.8%、生徒 85.6%、保護者 89.8%と高い。また、「泉北高校に進学してよかった（生徒）させてよかった（保護者）」という項目においても各 76.2%と 89.4%と高い数字を残しており、専門高校としての学校の教育には特徴があることは認知されかつ、学校満足度は高いという結果である。</p> <p>③「部活動と学習の両立を果たしているかどうか」についての、肯定的回答は、教員・生徒・保護者の各々で、40.4%、34.6%、41.7%と半分にも満たず、めざす学校像に掲げる「文武両道」が達成されているとは言えない。</p> <p>④授業アンケートによる、生徒の「予習復習を行っている」という項目の肯定回答は 48%であり、これが上記の両立を果たせていない原因と思われる。予習復習を定着させる方法を検討していく必要がある。</p> <p>⑤進路指導面では、「学校の情報提供に満足している」保護者は 56%、「進路面で学校は連絡等をよくしてくれる」の、肯定回答が生徒 66%、保護者 63%で、教員が「進路面で家庭への連絡をよく行っている」が 81.6%であることとを考えると、かなりの意識のずれがあるという結果となった。</p>	<p>第 1 回 (9/7)</p> <p>○H23 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後、勉強時間が減少する状況を把握し、改善に努められたい。 ・イングリッシュフロンティアハイスクールとして、GET の授業等は評価できる。総合科学科の生徒も受講していることも良いことである。この授業の継続と内容（レベル）の全員を対象とした授業への拡大に努められたい。 ・スーパーサイエンスハイスクールの 5 年間の指定が受けられなかったことは残念である。これまでの成果の継続と再申請に向けて準備に対応されたい。 ・学校の方向性を明確にして、勉強一辺倒の学校とならないようにしてもらいたい。 <p>第 2 回 (3/8)</p> <p>○H23 年度の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クラブと学習の両立」について、部活動参加者 80%というが、むしろアルバイトの方に目が向いているのではないか。クラブが原因で学習ができないという分析では不十分ではないか。 ・OB を活用して、生徒の自習の際の質問に答えてもらうようにするなど、他校での取組みを参考にしてほしい ・補習は生徒のモチベーションを高めるという効果があり、その結果として自己学習力も高まる。 ・現在行われている、先生方の講習の状況についても、協議会で報告してほしい。 ・課題研究、英語、クラブ活動など何か自分に自信のもてるものがあれば生徒の学習へのモチベーションを高めることができる。 ・学校というのは組織で事業を行うものであり、担当者が異動したら実施できないような形にはしないこと。 ・多様な人材を育てるために創意工夫を図ることにより全体の学力が向上する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	SSH 事業の成果を踏まえ、ICT を使用した授業の充実や、高大連携の継続等により、生徒の科学的教養を高める。また、自然科学に対するさらなる興味・関心を喚起する。	<ul style="list-style-type: none"> ○理科及び数学において、少人数によるきめ細かな指導を行った。 ・理科においては、実験・実習を数多く行った。 ・課題研究については、授業時間及び放課後等を活用し、生徒の自主的な学習活動を支援した。 ・課題研究発表会を実施（6月） ○海外修学旅行等を通して、理科系の生徒にも英語の必要性を認識させることができた。（10月） ・オーストラリア海外研修（8月実施、生徒5名参加）において、姉妹校であるモスマン高校と連携し、海洋実習等の自然体験活動についても実施した。 ○中学生に対して理科の実験を体験する授業を実施した。（若松台中学3年生対象） ○研究授業を実施した。（物理科） ○課題研究発表会を、6月25日（土曜）府大Uホールで実施。10班の口頭発表と、全班によるポスターセッションを実施。三国丘高校の招待発表を受け、外部からの参観者も多数あった。 ○高大連携講座（2年生対象、6月）に、府大から7名、近大から1名の先生に来ていただいて、本校で講義をしていただいた。7月には大学訪問研修として、2年生が、府大14、近大8の研究室を訪れて研修を受けた。8月は、1年生が市大理科セミナーとして8つの研究室に分かれて研修をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理科は、実験実習を多く取り入れ、生徒の興味関心を高めることに取り組んだ。物化生地で、合計200テーマの生徒実験を実施した。授業アンケートの「授業を受けて興味関心が高まった」という肯定回答が、科学科の生徒の全科目の数値（56.7%、58.1%、53.9%）に比べて理科は、（61.1%、68.6%、56.6%）であり、成果が表れているといえる。今後も、この数を維持するようにする。 ○総合科学科1・2・3年で、数学（1年3単位、2年3年4単位）、学力別少人数授業とした。その講座においては、各学年とも生徒の授業アンケートにおける理解度がそれぞれ58.8%、65.5%、63%であるのに、少人数展開をしている科目においては、63%、82%、64%（数Ⅲを受験で必要とするグループでは73.5%）と効果がでていいる。 ○訪問した研究室は、合計30講座となった。募集については、それ以上行ったが、参加希望の少ない講座は非開講としたためである。事後のアンケート調査において、生徒で「よかった」と答えたものが61.1%、高大連携講座を受講した生徒で「よかった」と答えた生徒が、58.7%であり、いずれも好評であったが、講義よりも実際に実験等を体験する方がより興味をひくという結果になった。生徒の感想を活かして、現在の提携先をさらに広げたり、研究内容の種類を多くしていきたい。 ○理科の研究授業は1講座を府全体に公開、他は全員が校内で実施。全てビデオ撮影して、それぞれが今後の授業内容の改善に利用した。校内で教科の枠を越えた研究協議なども実施して、多角的に授業力の向上を図りたい。 ○中学生対象の理科講座を、物化生地で1回実施した。
取組み②	「使える英語プロジェクト」を実施。生徒の実践的な英語運用能力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ALT との TT により、英語によるプレゼンテーション能力の向上を図った。大阪府高等学校英語暗唱弁論大会で、弁論2位、暗唱4位の成果を挙げた。また、第1回 Osaka English Forum においては、スピーチ部門とG3校によるプレゼンテーション部門で各々優秀賞を獲得した。 ○授業を通じて、TOEIC 等の対策を行い、その成績の向上を図った。 ○TOEIC BRIDGE については、1・2年生全員に受験させ、成果を挙げた。（10月） ○学校設定科目「GET(Global English Training)」を6限目（放課後）の選択科目として開講し1・2年生併せて100人以上が受講した。土曜日に外部講師を招請し、TOEFL 対策の特設クラスを開講した。 ○海外から修学旅行等で来校する学校と積極的に交流した。韓国・アメリカから3校の来校があり、授業交流や1泊ホームステイを実施した。 ○研究授業を実施した（9月実施。校外からの参加者20名） 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内暗唱大会・レシテーションコンテストに対する指導の成果が、大阪全体での好結果につながった。ネイティブの講師と英語科教員との連携を更に密にして、英語によるディベートなどより質の高い内容を実現したい。 ○1,2年生全員が受験した TOEIC Bridge テストの学年平均において、総合科学科2年は、昨年110点から115点に、国際文化科は、121点が138点と上昇した。 ○海外語学研修を3コース実施して、オーストラリア15名、ニュージーランド15名、ハワイ9名が参加した。今年度初めて実施したハワイ大学のコースについては、参加生徒の意見を参考に内容に充実を図る予定である。 ○TOEIC-IP を13名（学校平均456.2）、TOEFL-ITP を15名（学校平均423.9）が受験した。来年度は、年度当初の説明会時点から、府主催の2種のテストの受験を前提に生徒を募集するなどして、さらに受験者を増加させると同時に、教材を再検討して学校平均点をさらに向上させる。

<p>取 組 み ③</p>	<p>進学校としての特性を踏まえ、生徒に的確な進路情報の提供やキャリア教育を行う。</p>	<p>○企業の方に講師を依頼する進路講話を、1学期に1年生対象に、3学期に2年生対象に実施した。</p> <p>○進路 LHR を、各学年多く開き生徒が目的意識を早く持つようにサポートした。保護者対象進路説明会を学年別に開催し、多数（1年 136、2年 137、3年 137）の保護者に参加してもらえた。</p> <p>○進路 LHR は、1年 4回、2年 5回開いた、外部講師を招聘する講演会も、1年で2回2年で2回開いた。</p> <p>○進学補講を実施した。</p>	<p>○学校の進路情報提供に対する生徒の肯定的回答は、66%であった。進路ニュースの発行や LHR や後援会の持ち方を工夫して、肯定率を上げるような取り組みを行っていきたい。</p> <p>○進学補講は、平常時 6科目（平均して週 3日）開催、また夏期・冬期に、25 講座以上を開講した。</p> <p>○国公立現役合格者 17名（前年度 12名）、関関同立合格者 82名（昨年度 102名）、近畿大学合格 99名（昨年度 92名）という結果であった。国公立受験を更に進めると同時に、中間層の学力向上策を検討したい。</p>
----------------------------	---	--	--